

鼎談

モバイルサーバ事業拡大に向けた今後の取組み

ご出席者

日本電気(株) 企業ネットワークソリューション事業本部 主席事業主幹

松村 光隆氏

日本電気(株) ITサービス企画本部 エグゼクティブ・エキスパート

田島 彰二氏

NECエンジニアリング(株) 第一システムソリューション事業部 事業部長

平野 善郎氏

モバイルサーバによる映像・音声を活用した現場可視化ソリューション「SmartFieldManager」の市場投入と導入拡大、さらには様々な現場の状況をリアルタイムに把握する新たなソリューション開拓に注力するNEC。モバイルサーバ事業の拡大に向けた今後の取組みについて、事業を牽引する3人のリーダーに鼎談を行っていただいた。

4階層システムからなるモバイルサーバソリューションを積極推進

松村 NECは、お客様の利益向上に加え、安心安全やECOに貢献する企業向けソリューションの創出・展開に注力しています。その一環として、昨年からNECエンジニアリングと共同でモバイルサーバを中心とした企業向けソリューションの一つとして、VI-10による映像と音声を活用して現場作業をビジュアルコミュニケーションで見える化するユ

ビキタス現場可視化ソリューション「SmartFieldManager」を商品企画化し、今年4月に市場投入しました。すでにいくつかの導入事例や実証実験事例もでてきており、その有効性に加え、お客様からはいくつかの改善要望も寄せられています。また、海外からの引き合いもあります。私どもでは、モバイル&ユビキタス環境の進展に合わせ、現場可視化ソリューションの市場展開に加え、VI-10を核にした新たなソリューションの創出にも注力し、企業の安心安



松村 光隆氏

全や社会貢献に寄与することで、モバイルサーバ事業の拡大につなげていきたいと考えています。

田島 私は、モバイルサーバソリューションは、図1に示すように4階層システムから構成されると捉えています。まず「現場」階層では、人や車等の可動体に搭載されたVI-10にカメラ、マイク・スピーカーを接続し、動画、静止画の配信、音声ベースの複数拠点間でのビジュアルコミュニケーションが可能になります。次の階層は、現場とセンター

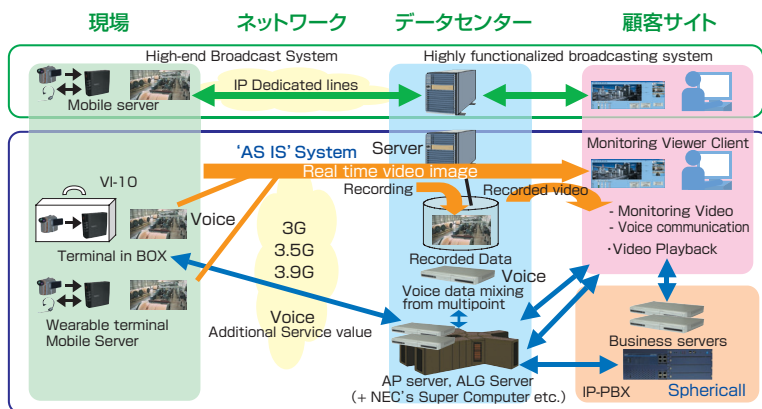


図1 モバイルサーバソリューションの4階層システム



田島 彰二氏

あるいはデータセンターを結ぶ「ネットワーク」です。ウェアラブル端末の形態と用途、現場地域・国のネットワーク特性によっては、例えば3G、3.5G、3.9G等さまざまな接続形態が必要です。3つ目に、コンピュータ・サーバ、ルータ/スイッチングハブなどインターネットやデータ通信等の装置を設置した「センターあるいはデータセンター」の階層があります。ここには、システム全体のセンター機能が配置されます。持たざる経営の推進に伴い、「顧客サイト」に装備されている業務システムをデータセンターに移行するという流れが加速すると考えています。さらに、4つ目の階層として「顧客サイト」があります。ここには、センター監視ビューアが設置されるほか、自社内に構築された業務システムが配置されます。VI-10で吸い上げた現場のデータは必要に応じて加工され、これらの業務システムに連携されます。そして、モバイルサーバソリューションの4階層システムの各階層ごとに、独自の強みを持つプレイヤーがいます。

平野 VI-10の開発を行った私どもに加え、現場可視化ソリューション「SmartFieldManager」のUメットを共同開発した谷沢製作所様や、SIP対応の多拠点接続用オーディオミキサ（MCU）の提供元であるヤマハ様などとのパートナー連携により実現しています。

田島 その意味で、パートナーとの協業を積極的に推進することは極めて重要だと思っています。

平野 現場可視化ソリューションでは、VI-10を組み込んだUメットが、お客様でも利用シーンをイメージしやすく、非常に訴求力があります。一方で、限定した活用法の先入観を与えてしまうきらいもあります。そこで、各種パートナー協業により、超小型モバイルサーバVI-10の活用バリエーションを豊富にし、モバイルサーバソリューションにもいろいろな可能性がある事を訴求して行きたいと思えます。

松村 確かにUメットが現場可視化には分かりやすいために、それに固執しがちですが、モバイルソリューションの利用シーンは広いという事を訴えて行くのも必要ですね。

海外市場で、2つのソリューションモデルの展開を計画

田島 海外市場でも、新しいモバイルソリューションの展開に取り組んでいます。一つは、NEC欧州現地法人との共同プロジェクトの展開です。NEC欧州現地法人は現在、VI-10より大きな装置を活用してモバイル映像監視ソリューションのシステムを運用中です。それならば、より小型、軽量化されたVI-10を活用しようということでVI-10システムと連携したソリューションをマーケットプロスペクトに提案すべく、日本側と共同で検討を開始しました。ターゲットプロスペクトは多岐にわたっており、警察・消防、または交通関連のソリューションをバックエンドシステムとの連携を中心に検討しているところです。例えば、交通関連では、高速道路等の現場のトラフィックの増減や、突発的な交通事故による通路閉塞状態の現場の見える化により、閉塞拠点での交通信号の開閉インターバル調整によるトラフィック流量制御、交通事故発生時点での通路閉塞・代替ルート設定等の速やかな判

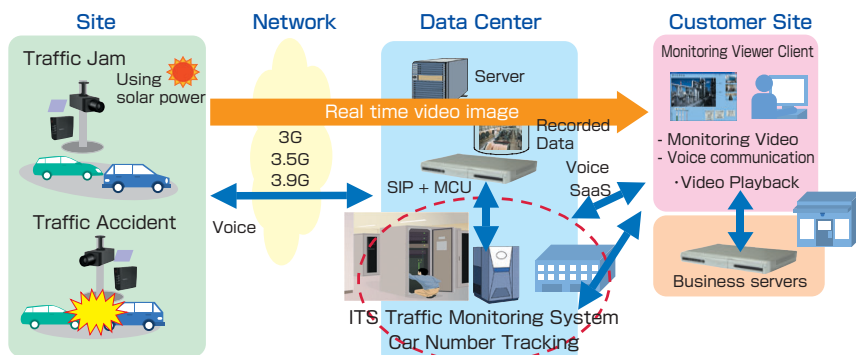


図2 NEC欧州現地法人との共同プロジェクト例「交通現場ソリューション」

断が可能となるソリューションが提供できます。配信されたデータはデータセンターのITS（高度交通情報システム）のDBに格納され、これらのデータはリアルタイムの意思決定処理、またその後の様々な処理（交通事故調査、交通違反処理等）に利用することが可能となります。

松村 もう一つ韓国では、医療機関向けのソリューション展開を計画しています。

田島 この取組みは、韓国の医療マーケットに幅広く製品を提供している医療機器メーカー様より、救急医療現場でのソリューションの提供を要望されたもので、現在、システムの具体化を検討しているところです。現場の見える化については、VI-10およびカメラ、ヘッドフォンスピーカー等を救急看護師が体に装備するイメージを考えています。

平野 日本の救急医療の現場でも活用できるモバイルサーバソリューションといえますね。

田島 救急車出勤時の救急医療対応では、急患の素早い対処が求められ、急患が救急車に担ぎ込まれた瞬間から救急車内現場、救急処置センター、病院との緊密な連携が不可欠です。そこで、映像と音声の双方向コミュニケーションによって急患の容態把握、医療機関・病院への連絡、救急処置センターあるいは病院から現場への指示等を行います。現場は、センターからの指示に基づき、患部のクローズアップ動画・静止画を配信し、酸素ボンベの装着やAEDを用いた蘇生処置等の緊急処置を行うといったシーンに利用する

ことを検討しています。これにより、救急車をスムーズに病院に運び、急患を収容することが可能になるほか、診療システムとの連携による緊急医療システムワークフローの改善も可能となります。救急医療の現場見える化による、より一層の救急サービスの向上も含め、本ソリューションへ大きな期待が寄せられています。

パートナーとの協業がモバイルサーバビジネス拡大の鍵

松村 パートナー企業の方々、さらにはお客様と一緒に、お客様の先のお客様のことを視野に入れながら、現在ある商品にこだわって事業性を評価するのではなく、皆がいろんな知恵を絞っているような活用法や新たなソリューションを創出し展開していくことが重要です。NECグループ一丸となった“OneNEC”としての取組み+パートナー企業+お客様との緊密な連携がモバイルサーバ事業拡大の鍵になると思います。モバイルサーバソリューションの創出・展開が、この事業にとどまることなく、NEC全社の事業展開モデルのケーススタディとなるように積極的に取り組んでいきたいと考えています。

平野 谷沢製作所様も、用途に応じたUメットのさまざまな活用方法を検討しています。

田島 その意味では、モバイルサーバビジネスは、コンソーシアム型で、Uメット、ポシメット、監視BOX、メガネ型など、VI-10活用の仲間を増やすことによって、ソリューションの幅を広げることには尽きると考えています。



平野 善郎氏

場合によっては、他社が展開するソリューションの中に、現場可視化ソリューションを組み込んで販売してもらうことも考えられると思っています。それによって、VI-10を含めた提供価格のさらなる低減も可能になります。

松村 私は、パートナー企業の方々やお客様と一体となって、モバイルサーバソリューションを進化させていくことが、“本当にお客様の役に立つ”ソリューションを提供し、事業を拡大していく一番の近道だと思います。もちろんコストも含め、事業性を考慮に入れることが前提になります。

平野 お客様の声が新しい商品を生む原動力になることは間違いありません。

松村 そういう連鎖によってモバイルサーバ事業は拡大すると思います。また、クラウドコンピューティングによるサービス化の流れを踏まえ、例えば現場可視化ソリューションのサービス化を視野に入れることも必要ですね。

田島 モバイルサーバソリューションの4階層システムをパッケージ化して、サービスとして提供することは当然考えられます。